

年 組 () 名前

サイン



◆ ふゆ うみ
冬の海でカニの漁が始まりました。

(2025年11月7日 読売新聞大阪朝刊より)

かい きん いっ ぴき ひゃくはちじゅうまん えん カニ解禁 1匹180万円

冬の味覚・ズワイガニ漁が6日、富山県から島根県にかけての日本海で解禁された。兵庫県新温泉町の浜坂漁港では初競りが行われ、1.3キロの雄1匹が180万円（税別）の最高値で競り落とされた。

同町では5日深夜、地元の漁協

に所属する漁船13隻が、沖合約20キロの漁場に向けて出港し、日付が変わると同時に網を投げ入れ漁を開始。漁港では、山陰地方で「松葉ガニ」と呼ばれる雄ガニや、小ぶりの雌ガニが次々と水揚げされた＝写真、沢野貴信撮影＝。

しゃしん よ
【1】写真のカニは、なんと呼ばれていますか。カタカナ5字で書きましょう。

--	--	--	--	--

※先生やおうちの人
といっしょに読みま
しょう。

はってん もんだい ず かん
【発展問題】図鑑などのカニを見て、絵をうらにかきましょう。

年 組 () 名前

サイン



リニア工事 11兆円に

ＪＲ東海は10月29日、開業が遅れているリニア中央新幹線で、東京（品川）―名古屋間（約286km）の工事にかかる費用が約11兆円に膨らむ見通しになったと発表しました。初めに計画していた5兆5200億円から2倍となっています。

主な原因は、資材費や人件費が高くなっていることや、難しいトンネル工事を安全に進めることなどに想定よりもお金がかかることが分かったからです。ＪＲ東海は東海道新幹線でのもうけや銀行からの借り入れで費用をまかなう考えです。



リニアの試験車両（2024年）

◆リニア中央新幹線の工事にかかる費用が、初めの計画から約2倍になると発表されました。

（2025年11月6日 読売KODOMO新聞より）

【1】工事の費用がふくらんだ原因を、記事からぬき出して書きましょう。

【2】リニアモーターの仕組みを調べて書きましょう。

年 組 () 名前

サイン

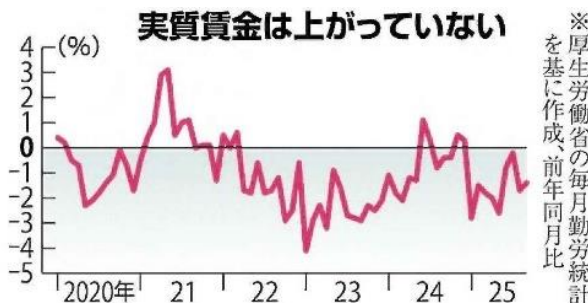
物価高 様々な要因重なる

物価が上昇した最初のきっかけは2020年のコロナ禍とみえています。世界中で一時的に生産活動が止まり、供給が減る一方、食品など生活必需品の需要は変わらず、21年後半頃から価格が上がりました。

次の大きな要因は22年、ロシアによるウクライナ侵略です。ロシアは世界有数の資源大国で、ウクライナは世界有数の小麦輸出国。世界中でエネルギーや原材料の調達が困難になる懸念が高まりました。特に原油価格の上昇は、あらゆる関連商品・サービスの価格に跳ね返りました。

一方、日本円の価値が他国の通貨に比べて下がる「円安」も原因の一つです。円安になると、輸入により多くの円を支払う必要があります。日本の食料自給率は38%（24年度、カロリーベース）ほどで、足りない分は外国から輸入しているので、影響は小さくありません。

それから、忘れてはいけな



地球温暖化です。日本では猛暑で23年に米の収穫が減り、価格が高騰しました。24年には世界的にオレンジが不足し、オレンジジュースが店から姿を消しました。

今年に入り、企業では人件費や物流費の上昇が問題になっています。運送業界では人手不足が深刻で、様々な商品・サービスの価格に影響を与えています。

給料が上がっている人もいますが、それでどのくらいの商品・サービスを買えるかを示す実質賃金は上がっていません。食品などの高騰に賃金の上昇が追いついていないのです。

◆食料品などの値上げが相次ぎ、物価高が続いています。その理由などを第一生命経済研究所の熊野英生・首席エコノミストに聞きました。

(2025年11月14日 読売中高生新聞より)

【1】物価高が続く背景を記事から読み取り、説明しましょう。

【発展問題】あなたは、どんなことに物価高を実感していますか。その対策として何が考えられますか。裏に書きましょう。

年 組 () 名前

◆相次ぐクマ被害から、宗教学者の山折哲雄さんは文明社会について考察しています。

山折哲雄さん



「冬眠文化とともに、文明社会の根底にあるものの考え方が崩れ始めたのではないかと語る山折哲雄さん（京都市で）」

(2025年10月29日
読売新聞朝刊より)

クマによる被害が各地で相次ぐ中、国際日本文化研究センター名誉教授の山折哲雄さんは「冬眠」という言葉に着目している。日本人の精神構造や死生観について鋭い批評を展開してきた94歳の宗教学者は、動物の生態にとどまらず、日本文化の特徴を捉えるキーワードでもあるとみている。

寒さ、絶食に耐える

クマに襲われて死亡した人は今年度、過去最多となっている。住宅街やスーパ―、観光地で人を襲い、近年は冬眠するはずの時期に人里に現れるクマも少なくない。山折さんはニュースを見て、『冬眠文化』が崩れてきている」と直感した。

それは動物だけでなく人間にもあてはまるという。冬眠の定義の一つに「寒さと絶食に耐える」ということが挙げられる。かつての日本人は、冬になると活動の縮小を余儀なくされた。日本の食文化を支えてきた発酵技術も、冬を越すのに欠かせない生活の知恵として発達した。

人間の冬眠の最たる例が、天台宗総本山・比叡山延暦寺の修行だという。比叡山には「千日回峰行」と呼ばれる荒行がある。山の中で寒さと飢えに耐えて千日の行に励むことで、宗教的精神性という果実を手にした。『冬眠文化』をベイスにしないと、日本文化の核になるものは理解できないんじゃないか。

冬眠文化に代わって前面に出てきたのが「冷凍文化」だという。飽食の時代、私

「冬眠文化」と「冷凍文化」 ■ 「クマ被害」に思う

私たちは冷凍技術で様々な食品を季節や場所を問わず味わうことができる。また、夏も冬も冷暖房で快適に過ごせる。クマの生息域の変化につながる地球温暖化も、こうした現代人の生活と無関係ではないだろう。

冷凍文化の本質は、利便性と合理性を何よりも重視する価値観だという。それが科学技術の発達を促し、生成AI（人工知能）を生み出した。現在、世界中でAIの利用を法で規制する動きがあるが、AIにはうそや偏見など人間社会の様々な問題が組み込まれており、「人間にコントロールできるとは思わない」と疑念を抱く。

冷凍文化が浸透した現代人の生活に、冬眠文化の要素を取り戻すことはできるだろうか。山折さんに尋ねると、「私自身もだめだろうな。冷蔵庫、冷暖房なしでは生活できない。しかし議論はしようじゃないか」という答えが返ってきた。

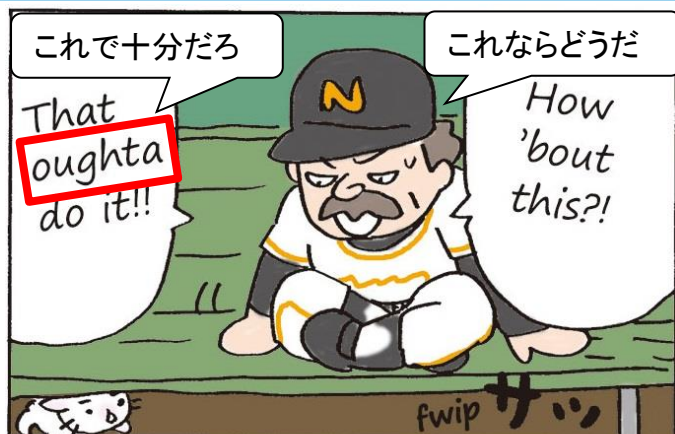
自然との共存や文明社会の制御など、山折さんが投げかける問いは大きい。

【1】「冬眠文化」と「冷凍文化」について、それぞれどういうものが説明しましょう。

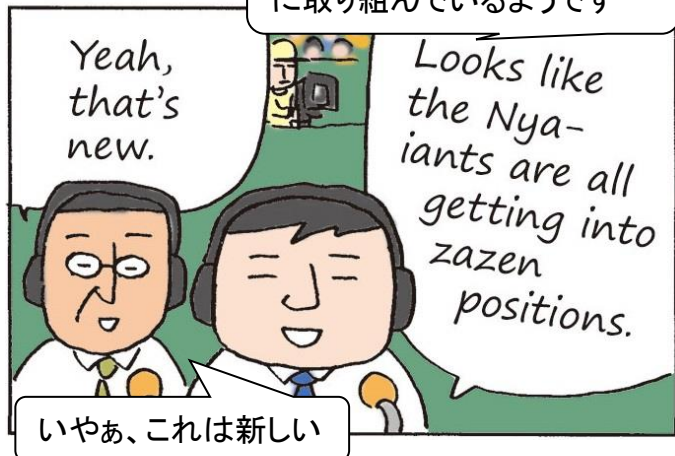
【2】自然との共存や文明社会の制御についてどう考えますか。具体的な事柄をあげてあなたの自身の考察を、裏にまとめましょう。

年 組 () 名前

サイン



ニヤイアンツはみんな、座禅に取り組んでいるようです



◆ミー太郎に足をかまれないように監督がベンチの上であぐらをかくと、みんなもなっています。それはまるで、座禅のようです。

ought to ~

~するべきだ。~のはずだ

「oughta」は「ought to」の略で、「should」と同じ意味です。「That ought to do it.」は「これで完了(十分)」といった意味になります。

★あわせて覚えよう★

- ought to have done
~するべきだった(しなかった)
- ought not to have done
~するべきでなかった(やった)

単語帳

get into: ~に入る、~を始める

★なぞってみよう★

ought to

should

2025 年日本・海外 10 大ニュース 投票スタート！

～今年のふりかえりや時事問題のおさらいに、みんなで投票しよう～

日本

「日本10大ニュース」の学習用端末での投票はこちらで受付中です！

<https://forms.office.com/r/FZu7dDK8EN>



「海外10大ニュース」の学習用端末での投票はこちらで受付中です！

<https://forms.office.com/r/uuifrgaU3M>

海外

読売新聞社は、2025年の「日本」と「海外」の「10大ニュース」への投票を募集します！

【投票の手引・要領】 11月26日（水）の読売新聞朝刊と読売新聞オンラインに掲載しました。

【応募方法】 「日本」「海外」いずれも、項目の候補から、順位をつけずに10個を選んで投票します。12月3日（水）のワークシート通信をご活用いただけますが、**締め切りまでの期間が限られるため、上記QRコードからウェブ投稿フォームをぜひご活用ください！**

【締め切り】 12月11日（木）。結果発表は日本が12月18日（木）、海外が12月19日（金）の予定です。

11月26日の読売新聞朝刊や、読売新聞オンラインで、くわしい内容がわかります！

<https://www.yomiuri.co.jp/feature/top10news/>



※2024年「日本10大ニュース」発表紙面（12月19日付け読売新聞朝刊）

※日本10大ニュースは1947年から、海外10大ニュースは1989年から、それぞれ毎年の皆様の投票で決定し、激動の社会の動きを記録してきた歴史ある企画です。昨年は「日本」「海外」で計4万通を超える投票がありました。投票項目がすべて10位以内に入った「全项目的中」の方は、結果発表時に氏名を掲載し、賞品を贈ります。皆様の参加をお待ちしております！

【お問い合わせ】 読売新聞東京本社世論調査部「10大ニュース」係 (t-top10news@yomiuri.com)